

釜ヶ崎講座 ニュース

No. 68号

発行日 2023/7/31

〒552-8799 大阪市港郵便局私書箱 40 号
〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋 1-9-7
釜ヶ崎日雇労働組合気付
事務局電話 090-2063-7704
郵便振替 00940-1-132778
メール kamakouza@cwo2.bai.ne.jp

ホームページ <http://cwoweb2.bai.ne.jp/kamakouza>

2023年8月15日・釜ヶ崎講座が第52回釜ヶ崎夏祭りにあわせ、 「釜ヶ崎歩きツアー」を開催します！

○開催日時 2023年8月15日（火） 午後12時30分から受付、13時出発

○受付・集合場所 釜ヶ崎日雇労働組合事務所（前）
大阪市西成区萩之茶屋1-9-7（JR新今宮駅東口出て右へ。府道横断、「釜銀座通り」へ、入船温泉前を
歩き1筋目右折、10M先を左折の路地右側）

○案内人 水野阿修羅さん

○参加費 500円（資料代含む） 事前申し込み不要

○主催 釜ヶ崎講座 （事務局 090-2063-7704）

会員・読者のみなさん、日頃は釜ヶ崎講座に対してのご支援・ご協力に感謝いたします。
また定期的カンパ等のご支援にもこの紙面を借りましてお礼申し上げます。有難うございました。

今夏も第52回釜ヶ崎夏祭りが開催され、釜ヶ崎に住み暮らす労働者・住民の闘いのイベントとして、また、
ふるさとを思い起こす心の安らぎの場として、実行委に集う仲間たちの力で運営されていきます。

釜ヶ崎講座は夏祭り最終日の8月15日に、釜ヶ崎歩きツアーを上記の要領にて開催いたします。中途、休
憩も十分とりますが、ご参加の皆さん、十分な暑さ対策をしていただき、ご配慮をよろしくお願いいたします。
参加お待ちしております。

① 第53回釜ヶ崎越冬闘争のさなか

連帯の行動と釜ヶ崎歩きツアーを実施！

第53回釜ヶ崎越冬闘争が昨年末2022年12月28日・越冬突入集会から新年1月5日の「お礼参り行動」（対府・市要望書行動）まで取り組まれました。

釜ヶ崎講座は、それに呼応し12月31日に連帯の行動、新年3日に釜ヶ崎歩きツアーを行いました。

この2つの取り組みには延べ44名の方が参加していただき、釜ヶ崎の新たな発見と運動等の現状を共有することができました。

12月31日の行動は人民パトロールの前に釜日労・佐々木さんよりコロナ状況のさなか、釜ヶ崎で働く人々の現状とこれまでの取り組み、新センター機能への取り組みの説明があり、特掃の月13日の実現、労働者・住民のためのセンター機能の実現へむけての取り組みの強化が述べられました。

当日の人民パトロールは難波・戎橋。1995年10月18日、藤本彰男さんが若者らの手により道頓堀川へ投げ込まれ、殺害されたことを決して忘れないための追悼と情宣のこの日の行動でした。

戎橋橋上にて60名の参加者による野宿労働者への許されない暴力と差別意識根絶のための釜ヶ崎の取り組みの訴えが展開されました。

そして新年（2023年）1月3日は恒例となった釜ヶ崎歩きツアー。今回も案内人として水野阿修羅さんが釜ヶ崎の歴史・文化を中心とする事象の語りを展開され、参加者納得のツアーとなりました。

「婦人アパート」といわれた建物のまえて、釜ヶ崎にまだ多くの女性と子供が暮らしていた時代があり、貧困により低額のアパートから当時のミナミや千日前へ働きに出た女性労働者が多くいたこと、「ひとり親」家庭の子には未就学児童がかなりあったことなどが水野さんから振り返りの語りがありました。6～70年代から女性や子供への貧困救済対策が公民問わず取られてきた釜ヶ崎ですが、現在も20代を中心とした世代の流入がみられる釜ヶ崎。ワンストップ相談や就労の窓口の拡充が依然として重要な課題であることが参加者に伝わったと思いました。

ツアーの最後は参加者からの質疑応答を受ける場があり、今回も参加者からの野宿・困窮をなくすための質問など、多くの意見が出される場となりました。毎回のアンケートへの記入も有難うございます。今後もより良いツアー開催のためにも一層の努力につとめてまいります。両日へのご参加、ご苦労様でした。

②1・25 生活困窮者に対する健康支援セミナー・ツアー開催される！

～新たな困窮層に寄り添える街づくりへむけて～

本年1月25日、新今宮駅近くにある太子福祉館を第1会場として「生活困窮者に対するセミナー・ツアー」の企画が開催されました。釜ヶ崎講座・わたなべ往診歯科・歯科保健研究会の3者共催で地元の多彩な方々の尽力と協働で当日は運営に導くことが出来ました。

この日は40名の参加者があり、直近課題としてのセンター建て替えを想定し、就労を軸としながらも、健康・福祉の面でより釜ヶ崎住民に安心できる施策を持続提供できるかという課題でのスピーチと現地見学でした。

太子福祉館での話題提供では テーマ①「生活困窮者の現状」として小林大悟さん（NPO 釜ヶ崎支援機構）、テーマ②「生活困窮者での介護・福祉の現状」で穴沢一良さん（NPO バリアフリーつばさケアマネージャー）、テーマ③「LGBT と医療・福祉」で佐保美奈子さん（大阪公立大学院看護学研究科准教授）ならびに渡辺匡人さん（ちむ訪問看護ステーション看護師）、テーマ④「歯科的支援活動の現状」として渡邊充春さん（わたなべ往診歯科院長）それぞれの方に問題提起してもらい、釜ヶ崎における健康・福祉での認識を深めました。

小林大悟さんは若年者支援の経験から「労働者の高齢化、寄り場の縮小の中でも生活相談支援は無くならない、若年層の特徴とニーズにマッチした活動継続を」と強調しました。

穴沢一良さんは「生活苦から救済・支援をしてきた釜ヶ崎の歴史がある。センター問題では「ワンストップ機能」での私たちの要求案も検証しながら機能の実効性を求めたい」と話しました。

佐保美奈子さんは「LGBT 問題の基本として人の性は身体・心の両面において多様で、性自認・性志向とは本人にとって方向づけされたもの、自分の意志では変えられない、好みや考え方の問題ではないこと大前提として認識しておいてほしい」と展開しました。渡部さんはトランスジェンダー（性別不合）を説明、当事者の身体・精神上の様々なリスクがあり、医療あるいはメンタルのうえで何らかの適切な支援が必要だ」と提起し、LGBT 問題への理解は釜ヶ崎地域での重要な課題の1つであることを参加者へ発信しました。

最後に歯科医師の渡邊さんは「20年前の社会医療センターでの野宿労働者の歯の検診をしたことが、治療が施されないままの困窮者への無料・低額診療支援の発端となった。以降様々な場面での治療・相談活動を重ねてきた」ことを話しました。

～ 社会医療センター病院のなかへ初めて入った！～

第2会場として企画された「大阪社会医療センター附属病院」は2020年8月、「西成特区構想」の流れの中、新たに南側敷地に建て替えられた施設です。

当日はメインのツアー見学地として社会医療センター附属病院を設定、同病院・総務課の奥村晴彦さんのご厚意・ご助力で院内見学が実現しました。

ちなみに私ども釜ヶ崎講座スタッフもこの病院に入ったことが無く、新築の病院内の見学に少なからず感激ひと

しおでした。

院内談話室にて工藤新三副院長、前記紹介の奥村晴彦総務課長、西成区保健福祉課・橋本安一さんのそれぞれの立場から、大阪社会医療センター附属病院の沿革・社会的役割ならびに西成区結核疾病への対処のオリエンテーションを受けました。以下、雑ぱくですが御3人の発言要旨をまとめて記します。

- ① 1970年、大阪社会医療センター附属病院は、済生会病院および大阪市の援護のもと設立。済生会今宮診療所の流れを汲み、地域生活困難者の診療と無料低額診療の堅持、医療・福祉面での相談等をベースに開業した。
- ② 今日では釜ヶ崎の地域変容に伴い、外来患者さんの医療保障別割合は80%超が生保取得者であり、70年代以来の日雇い健康保険、労災保険の割合はほぼ皆無となった。
- ③ 医療センター附属病院初代院長の本田良寛氏は、釜ヶ崎の困窮層地域としての特性を重視し、無料低額診療を継承した。
病院・患者の信頼をもとに医療費支払いは「ある時払いの催促無し」の精神で対処した。それは今日も経営指針の1つであり、年7~8%の医療保障割合として推移する。
- ④ 無料低額診療所は全国で約730か所、大阪でも82か所存在しており救済の役割を果たしている。
- ⑤ 病院の方針は、生活困難者への無料低額診療の堅持、単身高齢者と地域住民を支える。地域で生活する外国人への医療・福祉に対処する。地域交流を深める。大きな時代変化の中で医学調査・研究を進める。これらをかかげる。
- ⑥ 釜ヶ崎で罹患率が高かった結核の鎮静に長年対処し、9割近く減少したが、依然として患者数は多く、これから先も注力して地域住民の健康と暮らしの安定にまい進したい。

以上。

さてディスカッションのあと、グループに分かれての院内見学をさせていただきました。

特徴的なのは、各フロア、ルームの出入り口を一方通行に設定、対面通行を極力回避してあること、密閉フロアでも定時的な空調装置の稼働で空気の交換設計がなされており、コロナ等への対策の完備が分かりました。

貴重な見学体験と生活困窮者を見すえた大阪社会医療センター附属病院の経営理念に学ぶことが出来て、あらためて釜ヶ崎の地域社会資源の存在を認識することができたと考えます。

病院各スタッフのみなさん、当日はありがとうございました。また、ご参加の皆さん、ごくろうさまでした。

③ 第54回釜ヶ崎メーデーたたかわれる！

釜ヶ崎講座も連帯して行動に参加する

2023年5月1日、第54回釜ヶ崎メーデーは地域内「萩小の森」内で決起集会が開催されました。「全国・全世界の労働者、被抑圧民族、人民と団結しよう！」「排外主義に抗し国境を越えた労働者の団結で戦争に反対しよう！」等の政治的立ち位置を鮮明にしながら、100名をこえる隊列で釜ヶ崎内を三角公園へむけてデモ行進しました。

釜ヶ崎講座も特掃の維持・拡大、すべての釜ヶ崎労働者への就労の保証と生活の安定という反失連がかかげる立場に断固呼応しながら講座の取り組みの強化を前段の集会で訴えました。

その後、バス勝利号で大阪市と大阪府へ向けての「メーデー要望書行動」に決起しました。またこの日も連合大阪メーデー会場清掃の就労に40名の釜ヶ崎労働者が要望書行動隊30名と相呼応するかたちで出発していきました。

勝利号で大阪市役所・大阪府庁へ向かい、待ち構える行政担当者へ要望書を読み上げ手渡しました。高齢化と困窮が顕在化する釜ヶ崎のなかにあって、特掃を中心とした高齢・若年を問わず、社会的就労としての就労提供の具体策を強く求めました。またそうした行政側の責任ある姿勢が「センター建て替え」の施策の具体化につながる道であることを訴えて、お昼過ぎに釜ヶ崎へもどってきました。

④ 第19回釜ヶ崎講座学習会開催される

～西成を中心とした人口動態と街の変容を知り・学ぶ～ のタイトルで

去る5月17日の水曜・平日でしたが、西成・花園北にある「わたなべ往診歯科3F 会場」にて上記タイトルにてミニ学習会が開催され、釜ヶ崎内で福祉支援をする人を中心に約15名の参加がありました。講師には水内俊雄さん（大阪公立大学客員教授・西成労働福祉センター勤務）にお願いしました。

今回の学習会タイトルの「人口動態」とは「居住人口に照らした人の出入り」のことです。

この日の講師・水内さんは西成特区構想有識者会議メンバーの一員でこの日の学習資料は、水内さんが編集した議論に必要な西成区人口の詳細な中身の一部を「萩まちだより」（萩の茶屋地域周辺まちづくり合同会社発行）に凝縮・掲載されたもので、そのファイルをもとに説明されました。

今回の学習会の設定意義は、ズバリ釜ヶ崎のこの間の「街・人の変化」が続き、それに伴う就労や福祉支援の対象・中味の変化に今後留意する必要があるのでは？というところから考えられました。

白手帳をもつ日雇労働者の激減や住民総体の高齢化。しかも単身男性高齢者がダントツに比率が高く、平均寿命が10歳近く全国ベースより低い実態。そうした西成区の人口推移がくわしく説明されました。

一方、外国人問題に目をむければ、ベトナムの人を頂点としたアジア系外国人の近年の増加は、水内さんの説明によれば「外国人の急増と20歳代を中心とした日本人を主とした若年男女および50歳代壮年男子の漸増」が釜ヶ崎人口の平均年齢を下げており、人口減少を食い止めている現実にあるという実態がうかびました。

また生活支援の議論の中では、外国人の支援問題に特化して考えると就労における在留資格や入管問題へのアプローチが必須で、医療や福祉等の生活支援にあたり、文化や宗教などさまざまな分野への理解も必要だとの説明もありました。

この日は限られた時間の中でしたが水内先生の詳しい西成・釜ヶ崎の人口・居住実態を説明してもらい、多くの事実を知ることが出来ました。

このジャンルでの学習会を今後も検討していきたいと考えています。講師の水内先生、多忙の中、有難うございました。ご参加の皆さん、遅くまでご苦労様でした。

最後に事務局からのお知らせです。

会員・読者のみなさん、日頃のカンパのご支援に感謝いたします。有難うございます。
釜ヶ崎講座はみなさんの会費・カンパにて運営しております。今回も振込用紙を同封しておりますので宜しく願いいたします。